L.L.News 3

福祉ネイルSarasa ＠千代田区立障害者福祉センターえみふる

あちらこちらから「わあーキレイ!」という声が上がる。ここは、えみふる3F福祉ネイルSarasaのお部屋です。

絢香の大ファンで、ライブに行くのが楽しみという、いおさん

月に1回、第4水曜日に活動されている福祉ネイリストの内海紀公子先生にお話しを伺いました。その日も6名のご予約があるとのこと。お気に入りのあざやかなピンクの水性ネイルを持参された、いおさんとは、もう3年になるお付き合いだそうです。ネイルのお話はもちろん、ヘアスタイルや推しのアーティスト、ご家族の近況までおしゃべりの種は尽きません。

もとは、流行の最先端を行くサロンでネイリストとして長く従事されていた内海先生が、福祉ネイリストに転身されたのも、高齢のご家族の介護に対する後悔の想いからだと、しみじみと語られました。技術はもちろん、高度な専門知識が要求される福祉ネイリストですが、秋葉原のスクールで、講師としても多くの生徒さんを抱えて大忙しの日々を過ごされています。そんな毎日で、「手指に硬直などの障害のある方は、手元を隠してしまいがちですが、ネイルを施すと、最初はためらいつつも徐々に出せるようになったと聞くと嬉しくなります」と仰います。

丁寧に爪の形を整えていく内海先生

常にそっと寄り添うことを一番に心がけている、先生のとびっきりの笑顔に会いに、これからも皆さんいらっしゃるのでしょう。少し優しい気持ちになれた夏の午後のひとときでした。

ちょっと探訪⑧ Chiyotto Tanbou　Book House Cafe（ブックハウスカフェ）

『ちょっと探訪』では、知る人ぞ知るちょだの魅力に迫ります。

この看板が目印

神保町駅A1出口から1分程で、水色で縦長の看板が見えてくる。その1階が、神保町唯一のこどもの本専門店&カフェである「Book House Cafe」だ。中に入ると、天井画のやさしい太陽と月が出迎えてくれ、たくさんの絵本に囲まれた居心地のよさそうなカフェの佇まいが、和やかでゆったりとした時間の流れを感じさせてくれる。

天井画の太陽と月

赤ちゃんから大人まで楽しめる書店を目指しており、1万冊を超える国内外の作家の絵本や児童書のほか、ぬいぐるみなどの関連グッズ、楽しいステーショナリーも豊富に取り揃えている。人気のある絵本やグッズを中心に売るというよりは、定番の絵本だけでなく新しい絵本を1冊でも多くご紹介して「思いがけない出会い」の演出を心掛けているそうだ。また奥には、イベントや読み聞かせを行う貸しスペースがあるほか、平日20時から23時は、バーに変身する。

「どう売るか」にこだわるという今本さん

笑顔が素敵な店主の今本義子さんは、いつもやわらかく親切な接客をしており、なにげなく店内を眺めていると、そこで働くスタッフとのコミュニケーションもとても大事にしているのが伝わってきて、居心地がいいのはお客さんだけに限らないことがうかがえる。

場を引き継ぐ形で2017年5月5日に開店し、今年で6年。これからもガラス扉を押せば、いつでも童心に帰り「ひさしぶり」の絵本や意外な「はじめまして」の絵本に出会えそうだ。

INFO　Book House Cafe　〒101-0051 千代田区神田神保町2-5 北沢ビル1F　☎03-6261-6177　https://bookhousecafe.jp/

〈編集後記／高野〉 インターメディアテクを取材した際に、印象的だったエピソードがあります。東京大学の講義で使用していた模造船の展示を見て、「この講義を実際に受けていた」という方から、講義中のノートを寄贈してもらったそうです。そこに記されていたのは、緻密な船の設計図。その方曰く「この講義のノートは代々先輩から後輩へ書き写されていく」文化があったとか。一人の生涯だけでなく、次世代へと学びが引き継がれていく、“生涯学習”の理想の形を見た気がしました。

DanDan読者アンケート

皆さまのご意見・ご感想をぜひお聞かせください。アンケートフォームよりご回答いただき、九段生涯学習館1階受付でメール画面をご提示いただいた方には当館オリジナルグッズをプレゼントいたします。

※先着順／なくなり次第配布終了となります

DanDan第33号　2023年11月22日発行　発行：千代田区立九段生涯学習館 ©株式会社小学館集英社プロダクション
編集：DanDan編集室　〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-10　TEL.03-3234-2841　FAX.03-3262-7460　https://www.kudan-ll.info/

九段から発信する生涯学習コミュニティペーパー だんだん

DanDan Vol.33

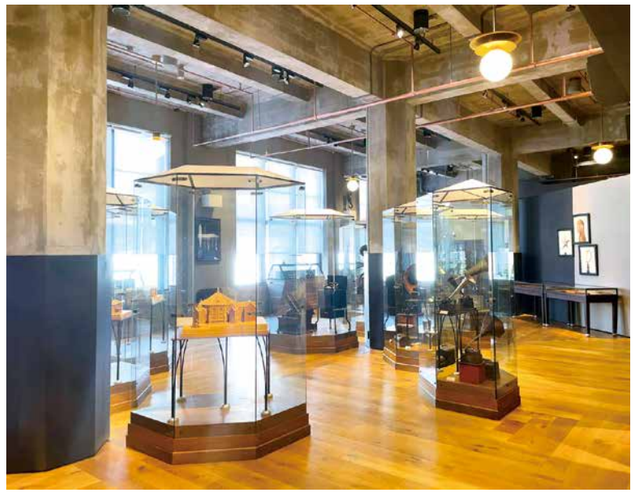
DANDAN2023 TAKE FREE LIFELONG LEARNING

わたしたちのウェルビーイングとは？

特集［第2回］

今年度のDanDanのテーマは「わたしたちのウェルビーイングとは?」。ウェルビーイング（Well-being）という言葉を耳にしたことはありますか。おおよその意味は「精神的、身体的、また社会的にも満たされた状態にあること」。心身の健康や幸福、自己実現を表すこの言葉は、学びを続ける「生涯学習」にも欠かせないように思います。ただし、それぞれのウェルビーイングにつながる活動は、きっと人それぞれでもあります。

今回の特集は「インターメディアテク」。日本郵便株式会社と東京大学総合研究博物館が協働で運営を行っているこの博物館は、東京大学が1877（明治10）年の開学以来、蓄積してきた学術標本を展示しています。展示室に入ると、まるで過去にタイムスリップしたかのような幻想的な景色が広がります。商業施設が辺りを囲う丸の内にある、不思議な空間の内部を、解剖してみましょう。



▲過去にタイムスリップしたかのような展示室［空間・展示デザイン©UMUT works］

INTERMEDIATHEQUE

JPタワー 学術文化総合ミュージアム インターメディアテク

〒100-7002 東京都千代田区丸の内2-7-2 KITTE 2・3階（☎ 050-5541-8600）

開館時間｜11:00-18:00（金・土は20:00まで開館）　休館日｜月曜日・年末年始ほか

千代田区立 九段生涯学習館 こころを育み明日へつなぐ

◉ 特集｜わたしたちのウェルビーイングとは?（JPタワー学術文化総合ミュージアム インターメディアテク）　◉ L.L.News｜ジュニアカレッジ「神田生まれの藍で染めてみよう!」／九段フェス第1弾告知／福祉ネイルSarasa　◉ ちょっと探訪｜Book House Cafe

わたしたちのウェルビーイングとは？

保存と展示

■「博物館は機能的なだけでは面白くない。もっと魅せ方にこだわらないと、人の心を魅了することはできない」。取材に応じた松原特任准教授は、前館長からそう言われたことを苦笑混じりに話してくださった。■魅せる展示を行うことは、貴重な資料を損傷させるリスクを高めるということ。保存と展示、相反する二つの要素を成立させるのは、至難の業である。しかし、インターメディアテクでは全所蔵品と慎重に向き合い、リスクの少ない資料に関しては積極的に大胆な展示を行なっている。例えば馬の骨格標本のような、大型で頑丈な資料が該当する。前足を上げていななく姿は躍動感に溢れ、来場者に強烈な印象を与えている。■全体も懐かしさを感じさせるデザインで統一されている。准教授はこの統一感が成り立つ理由として、デザインをほぼ外注しない点を挙げた。チラシのデザインなど細部に至るまで、収蔵品に理解の深い内部の職員だけで行う。だから空間全体が破綻しないのだと説明してくれた。■また、インターメディアテクには順路が存在しない。機能的な分類も意図的に無視している。来場者が自由に散策し、心の赴くままに展示品と向き合ってほしいとの理由からだ。

▼躍動感溢れる馬の骨格標本［空間・展示デザイン©UMUT works］

鉱石の魔力

▲地域の成り立ちや歴史を伝える鉱石がずらり
［空間・展示デザイン©UMUT works］

■特に惹きつけられたのは鉱石標本だ。人を惹きつける「魔力」を感じてならない。准教授に鉱石の価値について伺ったところ、その美しさや珍しさだけでなく、周辺地域の成り立ちや歴史を伝える、貴重な存在であると語る。■例えば、鉄鉱石や銅・鉛などの鉱石は実用的な資源として、国を上げて調査が行われた歴史がある。どの地域にどのような資源が、どの程度の質で存在するのかは、経済や軍事において極めて貴重な情報であり、外部に漏れることは許されなかったという。■准教授は鉱石の「魔力」について、地学の高校教師であったお父さまの言葉を借りて話してくださった。「何億年という悠久の時の中で、彼らは動かず、ただじっとしている。その奥ゆかしさが好きなんだ」と。■物言わぬ彼らだが、その語りかけは生きている者以上に、雄弁であると感じずにはいられなかった。

特別展示

魚学コトハジメ

INTERMEDIATHEQUE

特別展示『魚学コトハジメ』

2023年9月26日〔火〕～2024年2月18日〔日〕

会場｜インターメディアテク2階「GREY CUBE（フォーラム）」

主催｜東京大学総合研究博物館　入館料｜無料

L.L.News 1

ジュニアカレッジ「神田生まれの藍で染めてみよう！」 @九段生涯学習館 9.3〔日〕

今年、見事に千代田まちづくりサポート大賞を受賞した神田藍の会（一般社団法人遊心）、峯岸由美子氏による小学生を対象とした藍染め体験講座です。子どもたちは、神田で育った貴重な藍の生葉で1枚のシルクハンカチを染め上げました。

講座レポート

神田と藍の歴史や神田藍の会の歩みなどの解説から講座がスタート。その後はみんなで協力して刈りたての藍の茎から葉を取り、染液を作成しました。青汁のような液にハンカチを浸すと、葉の緑色に。本当に、これから藍色になっていくのかな？ハンカチをぱたぱたと空気に触れさせると徐々に藍色へ！お互いのハンカチを見せ合いながら、色の変化を楽しみました。地域で育った藍を使うことで、自然との共生を学ぶ貴重な体験となりました。

千代田区で広がり続ける神田藍愛

江戸時代、神田は紺屋頭が職人を束ね「紺屋町」と呼ばれるほどに染物が盛んな町でした。峯岸氏は地域の歴史になじみのある藍を中心に置くことで、コミュニティが広がっていくと考え、藍の栽培やワークショップなど活発な地域活動を続けています。こういった講座も多世代交流の場として活用されている様子から、まちサポ大賞にいたる理由が見えてきました。「藍が日常生活の中にとけこみ、いつでも傍らにある街にしたい。」と峯岸氏は語ります。藍をきっかけにつながりあった人たちが、それぞれ新たに学び楽しむ場をつくり、さらに別のコミュニティが芽吹いていく。峯岸氏自身が「藍の種」となってコミュニティを育み、藍の葉とともに人々のつながりを広げていくことでしょう。

L.L.News 2

九段フェス第1弾告知　今年度も開催！「九段フェス2024」

利用者の皆さまと一緒につくる、九段生涯学習館を舞台とした祭典『九段フェス2024』の情報をいち早くお届け！

今回のテーマは「Culture Travel」

いつも九段生涯学習館をご利用いただいている方はもちろん、初めての方も、「カルチャートラベラー」となって九段生涯学習館内を旅するように巡り、様々な文化体験ができる企画を考案中！ 昨年、好評につき、今年度もステージ発表やサークル紹介スライドショー、作品の展示、ミニ講座などを開催予定。

他にも利用者の皆さま同士が知り合い、新規会員募集にもつながるようなイベントの開催も検討中！ さらに、当日限定オリジナルグッズも配布予定です！ お楽しみに…！

サークル参加募集

今年度も『九段フェス2024』を一緒に盛り上げていただけるサークルを募集します。お申し込み〆切は11月30日〔木〕21時までとなります。ご応募を心よりお待ちしております！

九段生涯学習館公式チャンネル

九段生涯学習館のYouTubeチャンネルでは、昨年度「九段フェス2023」の様子をダイジェスト版でご覧いただけます。ぜひご覧ください。